【別添２】（様式例１）

令和２年度　自己評価・学校関係者評価　報告書(教務)

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号	５６

1 学校教育目標	**【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。** **【めざす学校像】　(1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校　(2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校** **(3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校　(4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校**
2 分掌における現状の分析	○どの生徒にも丁寧な学習指導を行うことができている。また教員間で授業研究（内容・方法）が意欲的に行われている。 ▲学習指導方法の引き継ぎに課題がある。
3 分掌の抱える課題	よい実践や新しい教育情報の職員間における共有促進
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 教科の特徴を生かし、学習意欲を喚起し深い学びを得る授業の推進 (2) 学科の特性に応じた生徒の将来につながる授業の推進 (3) 授業規律・学習環境を大切にするとともに、見通しをもった授業を推進

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
教科指導	① 「育みたい資質・能力を引き出せる観点別評価の研究」、「よりよい教育実践のためのICT(情報通信技術)の有効活用」を本年度の学習指導における校内研修の全校統一テーマに設定し、学習指導内容の精選及び生徒の学習意欲の向上に努めます。 ② ①の推進のために、教員間の研修を重ね、授業の改善に取り組みます。 ③「目標を明確にした授業」「生徒が主体的に取り組む授業」「言語活動の活発な授業」を継続して実践し、その取り組みを高める支援を推進します。	❶ 教員の丁寧な指導により生徒の学習意欲が向上し定期考査ごとの成績不振生徒数が減少する。	① 欠点をとる生徒が例年並みではあったが、全てのクラスがその授業の課題に応じた学びを展開できている。	B	○手当てが必要な生徒に対する授業時間外における学習指導、進路目標に応じた個別指導等丁寧に行うことができている。 ▲各学科に応じた学習指導については改善の余地がある。	B
		❷ 教員の丁寧な指導により生徒の学習意欲が向上し定期考査ごとの成績不振生徒数が減少する。	② 全ての教員が公開授業を行った。ICTの有効活用について各教科で研究を行い、授業内容や教授方法等の意見交流が行われた。	B	○ICT機器の活発な活用が見られた。 ▲ICT機器の有効活用という点については今後数年をかけての件テーマになる。	
		❸ 「目標を明確にした授業」「生徒が主体的に取り組む授業」「言語活動の活発な授業」を継続して実践し、その取り組みを高める支援を推進します。	③ 今年度はコロナウイルス感染症対策の関係で、言語活動の活発な授業を展開できなかったが、授業ビデオを作成して、冬休みの課題とする教科もあり、できる範囲での取り組みを行った。	B	○教科によってばらつきはあるものの、MetaMoji導入の研修会には大勢の先生の参加があり、非常に意欲的であった。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和３年１月２０日

学校評議員のご意見 ・学習指導での目標を数値化して目に見える形で実施するとよい。そのほうが継続した指導ができるのではないか。 ・授業が楽しければ、学校が楽しいはずである。わかりやすい授業、学力差を考慮した工夫をしてください。	12　来年度に向けての改善方策案 ・ICTの活用推進を最優先課題とする。 ・新教育課程における観点別評価の予行実践を来年度後期に実施することを目指す。 ・進学指導のみならず、授業を大切にすることを全校あげて取り組む。

【別添２】（様式例１）

令和２年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（進路）

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号	５６

1 学校教育目標	**【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。** **【めざす学校像】　(1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校　(2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校** **(3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校　(4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校**
2 分掌における現状の分析	○地元企業ガイダンスなどの地域と連携した取組による地元就職者数の確保（50%）と就職率100%の達成、分野別ガイダンスなどの進路行事による生徒の進路意識の向上 ▲３年間を見通したキャリア教育の推進
3 分掌の抱える課題	学科別・コース別に多様化する進路指導におけるキャリア教育の充実
4 今年度の具体的な重点目標	(1)情報提供･ガイダンス機能の充実 (2)キャリア教育の推進 (3)地域を活性化する人材育成

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
進路指導	① キャリアガイダンスや上級学校による学部･学科説明会、地元企業を中心とする職場体験学習、企業見学会、パネルディスカッションを実施します。 ② 外部模試等の結果を踏まえて、放課後の就職･公務員補習や進学補習、土曜講座、休暇中の特別補習を行い、弱点強化を図ります。 ③ 保護者対象進学・就職説明会や、地元企業ガイダンス、保護者による模擬面接を実施します。	❶ アンケートを用いての学校評議委員、保護者、生徒による進路関係の項目の評価が向上する。	①コロナによる休校明けに３年生を対象とした進学、就職ガイダンスを実施することができ、進路意識が向上した。職場体験は中止したが、その他のガイダンスは計画通りに実施できた。	B	○様々な情報を得て、進路について真剣に向き合うことができた。 ▲低学年時より、進路意識の向上を、学校生活や学習意欲の向上につなげていくことが課題である。	A (B) C D
		❷ 外部模試における客観的評価が向上する。具体的数値目標が達成される。	②コロナの影響により就職･公務員補習は手薄になったが、その他は、ほぼ予定通り実施することができた。意欲的に模試を受ける生徒が多く、成果も上がった。	B	○公務員合格者数、総合型及び学校推薦型選抜による国公立大学合格者数が増加した。 ▲学力差が大きいため、タブレット等を活用しながら、より効果的な方法を考える必要がある。	
		❸ 行事に招く外部講師や保護者による本校に対する評価が向上する。就職地元定着率が向上する。	③保護者対象の説明会が不十分であったが、地元企業ガイダンスや模擬面接により、飛騨地区就職率は55%を達成できた。	B	○下呂市や地元企業と連携を図ることができた。 ▲保護者対象の説明会をオンラインでも実施する必要がある。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和３年１月２０日

学校評議員のご意見

・地元就職率が５０％を超えていることを聞いて嬉しかった。そのような情報は地域や関係機関にアピールして欲しい。
・一度は地区外に出ても、下呂に戻ってくる生徒に育てて欲しい。
・保育実習では生徒の母校で実習させると、恩師や近所の子どもとの関わりができ充実するのではないか。

12　来年度に向けての改善方策案

・キャリア教育の一環として、就職者だけでなく、すべての生徒に対して、地元就職および地域の活性化に貢献できる人材を育成する取組を行っていく。
・ICTを積極的に活用し、適切な進路情報を集め、分析し、生徒、保護者、地域のニーズに応じて情報を発信できるようにする。

【別添２】（様式例１）

令和２年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（生徒指導）

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校　　学校番号　５６

1 学校教育目標	**【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。** **【めざす学校像】　(1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校** **(2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校** **(3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校** **(4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校**
2 分掌における現状の分析	○学年会・各分掌・管理職・他の機関との連携を通じて、情報共有しスムーズな対応・運営ができている。 ▲不登校や発達障害等に対する知識不足により、対応が遅れる。個性を理解し、学校・家庭・外部機関等と連携を密にすることが大切である。
3 分掌の抱える課題	問題行動や不登校生徒を最小限に抑える未然防止活動や研修等を充実させる必要がある。また、保護者対応と外部機関を利用した改善策を考える必要がある。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 学校規律、授業規律の確立 (2) 自他の人権や生命を尊重する意識の確立 (3) 問題行動の未然防止と事後指導

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導	①登下校指導、身だしなみ指導、時間厳守、忘れ物、授業態度などについて、職員の意思疎通を図り、生徒に指導します。 ②いじめ調査や生徒観察により、職員の共通理解を図り、情報共有することにより、いじめの早期発見早期解決に努めます。また、情報モラル教育を充実させ、情報モラル(SNS)意識を高めます。 ③ 問題行動の未然防止に努め、生徒への指導を行います。また、関係職員との連携を密にし、事後指導まで粘り強く行います。	❶規範意識を持って、落ち着いた学校生活が送れている。また、正しい服装の着こなしができている。	① 全体的に正しい着こなしができている。教員間の共通理解が得られ、登下校の指導が着実に行われている。また、授業規律も良好である。	B	○外部から、好感の持てる身だしなみであると評価いただいた。 ▲校内での身だしなみの乱れが気になる。	A (B) C D
		❷いじめ問題や情報モラル問題が発生しない。特にSNS等を使った画像（製造・所持・ばらまき）や誹謗中傷がない。	② 校内で速やかに情報共有ができている。いじめや情報モラルに関わる情報を共有し、外部と連携し、対策が、早期にできている。	B	○生徒の様子について、アンケートをすぐメールで行い、情報が早期に集まるようになった。 ▲潜在化した情報モラルによる問題に対して、注意喚起が必要。	
		❸問題行動の件数が減少する。同じ生徒が繰り返し問題行動を起こさない。	③ 生徒の問題行動に対する意識の向上を図ることができ、未然防止につながっている。教員間で、起こってからの指導より、起こさせない指導を心がけている。	B	○外部機関と連携し、情報共有し、早期に対応できるようになった。 ▲事後指導について、生徒の実態に合った方策を考えていく必要がある。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和３年１月２０日

学校評議員のご意見 ・服装の乱れもなく学校全体の雰囲気も良い。	12　来年度に向けての改善方策案 ・アンケート等をすぐメールで実施し、的確かつ迅速に情報共有し指導したい。 ・職員間や他の生徒の情報をもとに、早期発見・早期対応を心がけて行きたい。 ・学校、外部機関との連携を深め、マナーを重視した生徒指導を進めていきたい。

【別添２】（様式例１）

令和２年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（特別活動）

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号	５６

1 学校教育目標	**【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。** **【めざす学校像】　(1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校　(2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校** **(3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校　(4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校**
2 分掌における現状の分析	○生徒主体で生徒会活動がなされ、学校発展のために貢献しよく努力している。また、ボランティア活動など、地域への協力を積極的に行っている。
3 分掌の抱える課題	・他の分掌等との連携を徹底し、業務分担の主となるところを明確にしていく必要がある。 ・生徒減少による予算の縮小化を考え、行事等のあり方を考える必要がある。 ・生徒、職員の減少により、部活動組織の見直しが必要である。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 生徒会活動の活性化 (2) 特別支援学校との連携、地域ボランティア活動等を通して社会貢献 (3) 部活動、学校行事に真剣に取り組む

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
特別活動	① 三大学校行事（対面式、球技大会、文化祭）への取り組みを通して、生徒が自発的、自治的に考えて行動できるように支援します。地域との連携を意識して活動します。 ② 部活動への自主的な取り組みを通して、生徒が自ら成長できる機会と実感が得られるよう支援します。地域との関わりを意識して活動します。 ③ 生徒会執行部を中心としたＭＳリーダーズ活動、ボランティア活動への自発的な参加を促し、地域社会の一員としての自覚を深め、地域社会と積極的に関わろうとする姿勢、地域に貢献する心を育てます。	❶ 行事の取り組みが生徒主体となっている。自ら考える姿勢、現状に満足せず改善しようとする姿勢が生徒にみられる。地域連携を深めていく意識が見られる。	① コロナ禍で、通常の行事も行えない中、生徒会が自発的に課題解決に取り組み、状況にあった球技大会、縮小版文化祭行事を企画し実施することができた。	A	○コロナ禍で、生徒主体で問題解決をし、行事を実施することができた。 ▲学校全体で意思疎通を図り、全員理解のもとで、行事を運営することが大切である。	A (B) C D
		❷ 部活動への取り組みが生徒主体になっている。部活動を通して人間性を高め成長しようとする意識・姿勢が生徒に見られる。地域と連携した活動が見られる。	① コロナ感染防止を徹底し、可能な範囲で、部活動を活性化させるために日々努力し、生徒主体で活動している。また、部活動を通して、精神面でも大きく成長している。	B	○コロナ感染防止を徹底しながら、部活動を行っている。 ▲現状を踏まえ、今後どのように地域と連携していくのか再考する必要がある。	
		❸ 地域社会の一員としての自覚が生徒に見られる。地域社会と積極的に関わりに貢献する意識を持ち、実際の行動に移せている。	① 地域社会の一員としての自覚を持ち、地域貢献に積極的に協力できるよう活動を行っている。特に今年度は、下呂豪雨災害復興ボランティアに、多くの生徒が参加した。	B	○地域の現状を理解し、共に協力しながら活動を行っている。 ▲現状に合った活動に見直すことや、新たな取り組みを考えていく必要がある。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和３年１月２０日

学校評議員のご意見

・ライトアッププロジェット等、新しい取り組みを積極的に実施して欲しい。
・部活動の活躍は、地域の小中学生に刺激になるので頑張って欲しい。
・外部施設、体育館の使用マナーを徹底して欲しい。

12　来年度に向けての改善方策案

・コロナ感染防止を徹底しながら、どのように地域の方との交流ができるかを考え、学校行事等に活かせるような活動を推進していくことで、行事等の活性化を図る。
・部活動については、働き方改革や生徒にとって望ましいあり方など、国・県の方針に従い、活動の意義や活動時間を見直し整理する。

【別添２】（様式例１）

令和２年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（保健安全）

Ⅰ　自己評価

岐阜県立益田清風高等学校　学校番号　５６

1 学校教育目標	【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】　(1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
2 分掌における現状の分析	○感染症対策・対応に対する教員・生徒の積極的な取り組みを体系化して、一体感をもって徹底する。
3 分掌の抱える課題	学校生活の全般において、命・健康と安全に対しての根本的な意識づけと行動習慣をより実践的におこなう活動。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 心身の健康についての知識と実践する力の養成 (2)「生命を守る」訓練、「助け合う」行動に繋がる教育の推進 (3) 安全面等での地域と連携

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
保健安全	① 自らの身体と精神の健康を考え、生活を見直す保健安全教育、感染症予防のための保健指導に取り組みます。 ② 多様な災害に対し、自らの生命を守り、適切な判断･行動のできる生徒の教育に取り組みます。 ③ 環境美化に関わり貢献できる生徒の行動習慣を身につけ、地域の避難拠点としての学校づくりに取り組みます。	❶心身の健康に関わる諸調査を実施して統計的な数値にて判断する。	① 保健室に来室する生徒の訴えを分析することで、その対応について組織的に対応することをおこなった。	A	○学校としての組織的な感染症対策を推進し、教員・生徒における感染症を中心に健康教育を実践することで、保健室への来室数や内容に変化があった。	A B C D
		❷学校の体制づくり、訓練または教科における指導などを総括的に評価する。	② 避難訓練や防災週間におけるシェイクアウト訓練を具体的に実施することでの評価はできないが、教科や実際の災害をとおして自然の厳しさと自らの命を守る考えと行動を学ぶことができた。防災組織・災害時対応行動の見直しを重点的におこなった。	B	○具体的に身近に迫る豪雨災害により防災に対する日常的な意識と行動をとることで具体的な学びが育っている。復旧活動にかかわることで地域における「自分にできること」と「役割」を考え実践することができた。 ▲コロナ禍により学習時間の確保により、十分な時間をとっての集団的な知識学習をすることはできなかった。	
		❸環境美化に対して生徒会活動による積極的な活動をおこない、外部の要望に対応、評価を参考に判断する。	③ 生徒会や部活動の生徒を中心に校内・地域の環境美化活動をおこなった。	B	○生徒会や部活動の生徒による地域の環境美化や気持ちの良い挨拶は日常化してきている。 ▲生徒全般の意識の向上と行動や取り組みにしていきたい。	

Ⅱ　学校関係者評価　　実施年月日：令和３年１月２０日

学校評議員のご意見　　保健室の来室生徒の声に耳を傾け分析し、その対応を組織的におこなうことは大事な取り組みであり、学校活動全般に生かしてほしい手法である。本年度は文化祭の中止により「命の写真展」ができなかったが、地域力を活用した性教育を系統的に実施してもらいたい。

12　来年度に向けての改善方策案

現時点では未知の感染症の終息には時間がかかることが予測され、来年度の教育活動を計画的に実施できる見通しはたっていない。大切なことは、保護者への啓蒙・協力をはたらきかけながら、状況に応じて柔軟かつ敏速な対応を組織的におこなうことである。生徒に対しては、この機会を「命と健康」「社会の一員としての自覚」を考える実践教育の場面として活用したい。